第１８２回国際研修
「刑務所出所者の効果的な社会復帰支援
－就労、住居、医療等の切れ目のない支援の実現に向けて」

１　日程及び参加者

○　令和５年９月８日（金）から同年１０月３日（火）まで
○　海外参加者１７名（１５か国から参加）
○　国内参加者７名

２　研修概要

本研修では、刑務所出所者を含む刑余者の効果的な社会復帰支援を主要課題とし、特に就労、住居、医療に焦点を当てた切れ目のない支援の実現に向け、研修参加各国の法制度及び運用の実情について共有し、理解を深めるとともに、刑事司法の全段階における各国のグッドプラクティス、課題及びこれに対する解決策を集中的に議論し、刑余者の再犯防止に寄与する効果的な処遇や息の長い支援等の在り方について検討しました。

研修参加者は、当研修所の施設に約１か月間滞在して寝食を共にする中で、それぞれの国における犯罪者の社会復帰支援に係る有用な知見及び取組について学び合い、母国の刑事司法の充実・発展に役立つ知識を得るとともに、日々の交流により友情を育み、生涯にわたって糧となる国際協力のネットワークを築くことができました。

３　研修の内容

⑴　講義

本研修においては、国連アジア極東犯罪防止研修所教官による講義のほか、以下の客員専門家・国内講師による講義も行い、各講義の後に質疑応答の機会を設けました。いずれの講師に対しても、研修参加者から多くの質問が寄せられました。

【客員専門家】

○　オー・サブン　氏
　NGO プリズンフェローシップカンボジア　代表
　（講義題）「カンボジアにおける官民連携による刑務所出所者の社会復帰支援について」

○　ヘイディ・マリア・リンド　氏
　フィンランド矯正保護局　開発指導部・開発品質ユニット　プロジェクトマネージャー
　（講義題）「フィンランドの刑事司法制度と社会復帰支援」

【外部講師】

○　中井　政嗣　氏　　千房株式会社　代表取締役会長
　（講義題）「刑務所出所者を雇用する協力雇用主の活動について」

○　髙坂　朝人　氏　　NPO 法人再非行防止サポートセンター愛知　理事長
　（講義題）「刑務所出所者の住居支援を担う民間の活動について」

⑵　個人発表

研修参加者による各国の実務や課題に関する個人発表を行いました。各発表に対して、研修参加者から積極的な質疑応答が展開され、他国の制度に対する強い関心がうかがわれました。また、全ての個人発表の発表資料をオンライン上にアップロードし、セッション外にも閲覧できるようにしました。

⑶　グループワーク

研修参加者を職種ごとに３グループに分け、グループワークセッションを行いました。

ア　討議

上記２の主要課題について、それぞれのグループの職種に対応したテーマを設定し、ディスカッションを行いました。裁判官や検事を中心としたグループ①では、更生の観点を考慮した刑罰・処分のあり方について、矯正施設職員を中心としたグループ②では、受刑者が矯正施設から地域社会へ円滑に移行するための雇用、住居、医療を中心とした効果的な対策について、社会内処遇を担当する職員を中心としたグループ③では、犯罪者の社会復帰における地域に根ざした処遇とマルチステークホルダー・パートナーシップの促進について、各グループにおける研修参加各国の現状を分析し、課題となっている点を特定して原因を探った上で、各国のグッドプラクティスを持ち寄り、実現可能な解決策について意見を出し合いました。

イ　グループワーク発表

上記の講義、個人発表及び討議に基づき、各グループにおいて、共通する課題の特定とその対応策をまとめて発表し、研修の総括としました。

４　担当教官の所感

本研修では、世界各国の刑事司法手続きのあらゆる段階で活動する実務家である参加者が共に学び、議論を深めました。この研修の主要なテーマである犯罪者の処遇や社会復帰に向けた支援は、再犯を防ぎ、社会の安全を守るために不可欠な取り組みですが、どの国においてもその必要性や重要性に対する理解が十分に進んでいないのが現状です。犯罪者処遇に携わる実務家は、時に社会の無理解、誤解、偏見、批判にさらされながら、限られた予算や人員の中で、個々のケースに対して最善の処遇や支援を提供しようと奮闘しています。そして、犯罪者の社会復帰にとって多機関連携がいかに大切かを政府や国民に理解してもらう方法を模索しています。

研修参加者は、各国が共通する課題に直面している現実を知るとともに、自国の優れた政策や制度について再評価し、他国に共有する機会を得ました。また、この研修を通じ、犯罪者の更生と社会復帰という大きな課題において、省庁の枠組みにとどまらない、民間の方々の協力も含めた多機関連携が不可欠であることを実感できたと思います。世界中の実務家が同じように日々悩みながら目の前のクライアントに向き合っているという連帯感、自身の職務への誇り、犯罪者処遇という分野の将来に対する希望をこの研修で分かち合えたことは、参加者の生涯にわたる宝になると思います。今回得た知識と経験が、研修参加各国の制度を改善し、より充実させるための一助となること、そして、この研修の中で築いた友情と協力関係が、長く続いていくことを心から願っています。

以　　上